

OECD Astroparticle Physics WG 報告

戎崎俊一
理化学研究所

OECD の Global Science Forum の Astroparticle Physics の WG の第一回会合が、2月12日、13日の二日間にわたってパリで行われました。戎崎は文部科学省からの委嘱を受けて委員として参加してきましたので、報告をさせていただきます。

まず、この WG のチェアの Michel Spiro (mspiro@admin.in2p3.fr)から、この WG の性格と目標について報告がありました。Astroparticle Physics の分野は伸び盛りで使う装置が大きくなってきており、使う予算も膨大になっているので、全球的なコーディネーションの必要性がでてきた。これをやりやすくするための装置であるという説明がありました。また、OECD の立場からの補足説明が

Stefan Michalowski
Global Science Forum secretariat
Stefan.michalowski@oecd.org

からありました。

ヨーロッパ構成メンバーが昨年出された ASPERA 報告のメンバーと重なっていますので、あの活動を全球に広げたいというのが趣旨なのだろうと理解しました。各国の計画を紹介しあって相互理解を深めること、より大型の装置、もしくは全球的に広がった観測網の設立を目指して協力を話し合い、できるならば世界ロードマップを作成したいとのことでした。

まずは、Christian Spiering 先生（宇宙線研究）、Yoichiro Suzuki 先生（地下実験）、Chares Baltay 先生（宇宙論）、Benoit Moris 先生（重力波）の専門家が招待講演を行って当該分野のレビューを行いました。

それを受けて、ヨーロッパ、USA、日本、インド、ロシア（代読）の代表からの各国の状況説明がありました。以下の 4 つのサブワーキンググループが設定されそれぞれのチェアが決められました。

SWG1: Science Objectives

Chair David Sinclair (US) sinclair@physics.carleton.ca

SWG2: Resource Study

Chair David Sinclair (US) sinclair@physics.carleton.ca

SWG3: Roadmap

Chair Maurice Bourquin (Swiss) maurice.bourquin@unige.ch

SWG4: Social Benefit

CHAIR: Kathy Turner (US DOE) kathy.turner@science.doe.gov

これに欧州、米州、亜州からの委員がそれぞれ 3 人入って SWG が構成されます。その人選は、SWG チェアと今回の WG のチェアである Michel Spiro (mSpiro@admin.in2p3.fr)氏が相談して決めることになっています。梶田先生と相談し、別紙のプロジェクトは議論の俎上に上げるつもりです。

次回（第 2 回）の会合は 7 月 17 日 18 日に Poland で行われることになりました。また、戎崎は SWG3 の委員となるよう Spiro 氏から後日委嘱され、受諾しました。参考のため委員のリストを添付させていただきます。

以上

別紙1

分類

- A. Generalised cosmic ray search
 - a. Cosmic ray physics
 - b. High energy photon physics
 - c. High energy neutrino observatories
- B. Underground science
 - a. Direct dark matter search
 - b. Neutrino mass
 - c. Proton decay and low energy neutrino physics and astrophysics
- C. Cosmology
 - a. Dark Energy
 - b. Cosmological wave background
- D. Gravitational wave detection and other gravity experiments
- E. Other

日本参加プロジェクト 2009 年 3 月現在

Telescope Array	A-a	M. Fukushima (fukushim@icrr.u-tokyo.ac.jp)
JEM-EUSO	A-a,b,c	T. Ebisuzaki (ebisu@postman.riken.jp)
CALET	A-a,b	S. Torii (torii.shoji@waseda.jp)
Tibet AS	A-a,b	M. Takita (takita@icrr.u-tokyo.ac.jp)
Cangaroo III	A-b	T. Tanimori (tanimori@cr.scphys.kyoto-u.ac.jp) M. Mori (morim@icrr.u-tokyo.ac.jp)
Super-		
Kamiokande	B-a,b,c	Y. Suzuki (suzuki@icrr.u-tokyo.ac.jp)
KamLAND	B-b,c	K. Inoue (inoue@awa.tohoku.ac.jp)
XMASS	B-a	Y. Suzuki (suzuki@icrr.u-tokyo.ac.jp)
Hyper		
Suprime-CamC	a	H. Aihara (aihara@phys.s.u-tokyo.ac.jp)
QUIET	C-b	M. Hazumi (masashi.hazumi@kek.jp)
LCGT	D	K. Kuroda (kuroda@icrr.u-tokyo.ac.jp)
DECIGO	D	S. Kawamura (seiji.kawamura@nao.ac.jp)